



ISM研究会のお知らせ

File Edit Data

Help



日時

06月25日

14時30分

場所

立教大学 5号館

院生控室 教室

テキスト/テーマ

『環境経済学への招待』

編者/著者

植田和弘

出版社

丸善ライブラリー

範囲

第8章



前半期 第4回/通算 第72回

ご案内-詳細

今回、取り挙げる第8章は、本書の纏めの部分であって、本当に豊かな社会をつくるためには、環境収奪型の開発から、地域性を重視した開発へと開発戦略を転換するということを強調しています。

それとともに、今回は、この本全体の検討を通じて、環境問題の位置付け、それに対する色々な理論的立場の位置付けなどを総括的に探っていきます。

報告者

人名	割当
浅川 雅巳	com.
高橋 和敬	第8章

出欠

- 出席
- 欠席

OK

Cancel

Replace

引き続き、植田和弘さんの『環境経済学への招待』(丸善, 丸善ライブラリー266, 1998年4月, 740円)を読んでいます。この本では、世間と近代経済学で地球環境の破壊とそれに対する対策についてどういう議論が行われているのかということが、要領よく纏められています。

今回、取り挙げる第8章は、本書の纏めの部分であって、本当に豊かな社会をつくるためには、環境収奪型の開発から、地域性を重視した開発へと開発戦略を転換するということを強調しています。筆者の立場は、宮本憲一さんの内発的発展論、宇沢弘文さんの社会的共通資本の理論などとリンクする立場です。

それとともに、今回は、この本全体の検討を通じて、環境問題の位置付け、それに対する色々な理論的立場の位置付けなどを総括的に探っていきます。



『環境経済学』は今回で終わる予定です。今後に取り挙げてほしい——あるいは取り挙げるべき——テキストがありましたら、お教えてください。

現在のところ、——

『ルイ・ボナパルトのブリュメール18日』, マルクス, 国民文庫32, 大月書店  
(ナポレオン3世によるクーデターを扱っている本。現代社会の国家機能の解明に役立つと予想されます)。

『フランスにおける内乱』, マルクス, 国民文庫31, 大月書店  
(普仏戦争後のパリ・コミュンを扱っている本。未来社会への過渡期の国家形態の考察に役立つと予想されます)。

『哲学の貧困』, マルクス, 国民文庫13, 大月書店  
(プルードンの『貧困の哲学』を体系的に批判している本。社会科学方法論、経済学理論の理解に役立つと予想されます)。

などが候補として挙げられています。但し、前半期の予定は残り僅かなので、取り敢えず“つなぎ”のテキストを読んで、後半期から上記テキストの一つを読み始めるという案もあります。

今後の予定は、――

**07月09日(日曜日)**

**23日(日曜日)**

です。予定を立てる際の参考にしてください。

